

【農山漁村におけるふるさと生活体験推進校】

夏休み錦町宿泊体験学習
しゅうなんしやじ
周南市立夜市小学校

学校の概要

① 学校規模

- 学級数：7学級（内特別支援学級1学級）
- 児童数：107人
- 教職員数：11人
- 活動の対象学年：全学年・107人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 周南市の中心地より西へ約10kmの所に位置し、利便性が比較的よく、校区には多くの田畑が存在する。
- 周辺には自然が多く残り、地域の祭など伝統行事なども受け継がれている。
- 地域は、学校教育に大変理解があり、隣接する学習田での自然体験学習や学校行事などに、地域の強力な支援がある。

③ 連絡先

- 〒746-0084
山口県周南市大字夜市730番地
- 電話：0834-62-2711
- FAX：0834-62-2700
- ホームページ：http://www.shunan.ed.jp/yajisho
- 電子メール：yajishou@shunan.ep.jp

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 何事にも進んで取り組ませ、家族班の協働による成功体験を味わわせる。
- 児童相互のよさに気付かせ、心のつながりを強化させる。
- 自己を厳しく見つめさせ、最後までやり抜く強い心や美しいものに感動する心を育てる。
- 様々な人、物、事にかかわることを通して多様な見方、考え方、感じ方ができるようにする。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 宿泊体験学習（下学年）
（特別活動1単位時間、生活科7単位時間、体育2単位時間、図工2単位時間）
- 宿泊体験学習（上学年）
（総合的な学習の時間9単位時間、特別活動3単位時間、図工2単位時間、体育9単位時間、理科6単位時間）

③ 宿泊先

- 8月25日(月)・26日(火)：1～6年：民泊〔岩国市錦町3地区(広瀬、向峠、府谷地区)〕
- 27日(水)：4～6年：羅漢山交流センター
- 28日(木)：4～6年：深谷峡温泉清流の郷

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

【学校教育目標】主体的に人や社会とかかわり、心豊かにたくましく生き抜く子どもの育成

- 《基本方針》
- 児童一人ひとりのよさや特性を伸ばし、何ごとにも主体的にかかわらせ、自己教育力を育てる。
 - 心の教育を積極的に推進し、自己を厳しく見つめ他者を思いやる心を涵養する。
 - 児童自ら進んで外遊びや運動に親しみ、自他の健康で安全な生活を実践する力を育てる。

- 『重点事項』
- 確かな学力の育成（主体的学習、伝え合う力、基礎基本の徹底、学習習慣の確立強化）
 - 豊かな心の育成（道徳性、自己肯定感、体験活動、学級づくり、人間関係づくり「AFPPY」）
 - 健康な身体の育成（生活習慣、運動・遊び、健康教育、保健委員会、安全教育・管理）

(2) 全体の活動計画

- ① 期 間 8月25日(月)～29日(金)
 ② 活動日数 2泊3日(1、2、3年) 4泊5日(4、5、6年)
 ③ 活動内容

月 日	体験活動の内容	実施学年	教育課程上の位置付け(単位時間数)
8月 25日 (月)	開校式：オリエンテーション 草木染め 川遊び 自然探検「とことこトレイン」 ホストファミリーとの対面式 民泊	1～6年 " " " " "	特別活動(1時間) 図画工作(2時間) 体育(2時間) 総合、生活科(1時間)
26日 (火)	農業体験(田畑での勤労体験) 民泊	1～6年 "	総合、生活科(6時間)
27日 (水)	民泊した農家への奉仕活動 魚釣り カヌー 法華山散策 キャンプファイヤー	4～6年 " " " "	総合(2時間) 体育(2時間) 理科(2時間) 特別活動(1時間)
28日 (木)	羅漢山登山 奉仕活動 わさび栽培 酪農体験	4～6年 " " "	体育(3時間) 特別活動(1時間) 理科(1時間) 理科(1時間)
29日 (金)	奉仕作業 沢歩き 閉校式	4～6年 " "	体育(2時間)、理科(2時間)

2 活動の実際

重点事項 ・全校児童全員参加 ・児童の主体性の伸長 ・児童相互の人間関係の深化
 ・児童の感性を磨く ・児童の道徳性の伸長

(1) 事前指導

- ① 家族班での清掃活動(週4回実施)
 ○ ねらい 家族班で協力しながら清掃活動を行うことを通して、掃除の仕方を教えあったり、責任をもって掃除をしたりできるようにする中で、班員のよりよい人間関係をつくるとともに、上学年のリーダー性を育てる。また、みんなで学校を美しくしようとする心情を育てる。
- ② 家族班給食(1回実施)
 ○ ねらい 家族班での給食を通して、人間関係を深め上学年のリーダーシップ及び下学年のフォロアーシップを高める。
 食事(作法、話題等)のマナー向上を図る。
- ③ 上学年児童への指導〔7月9日(水)4校時実施〕

- ねらい 民泊家庭での過ごし方を念頭において、上学年児童に礼儀作法や安全面で留意することなどを考えさせ、家族班の下学年児童に教えられるようにする。
- 指導内容
 - ・ 安全面、礼儀作法、生活面について
- ④ 家族班での話し合い〔7月17日（木）1校時実施〕
 - ねらい 宿泊体験学習に向けて、グループで仲良く活動するために目標を決め、それを達成するための自分のめあてを決める。
民泊家庭での過ごし方に関して、班長が中心になって礼儀作法や安全面での留意点などを、家族班の下学年児童に教える。
 - 活動内容
 - ・ 錦町の様子を写真などで知る。
 - ・ グループの目標と、それを達成するための自分のめあてを考える。
 - ・ 民泊家庭での過ごし方について話し合う。
- ⑤ 最終指導〔8月17日（日）：環境整備作業後に実施〕
 - ねらい 宿泊体験学習を1週間後に控え、「心の準備」、「物の準備」、「体の準備」を万全にするように全校児童及び保護者に周知する。
 - 指導内容
 - ・ 必要な物品を準備する。 ・ 規則正しい生活をして心身の健康状態を整える

(2) 実践

月日、活動場所、活動内容、参加児童等	指導体制等
【第1日】〔8月25日（月）〕 錦町広瀬地区 参加児童107人(全校) ・開校式：オリエンテーション ・草木染め ・川遊び ・自然探検「とことこトレイン」 ・ホストファミリーとの対面式 ・農家民泊（広瀬、府谷、向峠地区28家庭） 家族班の男女別（3～5人）で1軒に民泊	昼間 指導者：教員10人 支援員7人 現地スタッフ4～6人 夜間 宿泊：本部と3地区（広瀬、府谷、向峠地区）に教員が各2～3人、支援員が各2～3人 *緊急対応車両：3台
【第2日】〔8月26日（火）〕 錦町3地区 参加児童107人（全校） ・農業体験（各家庭で畑や田での勤労体験） ・農家民泊（1日目と同じ家庭に民泊）	昼夜 指導者：教員10人 支援員10人 現地スタッフ4人 *緊急対応車両：3台
【第3日】〔8月27日（水）〕 広瀬地区、羅漢山 参加児童59人（4～6年） ・民泊した農家への奉仕活動 ・広瀬地区へ集合後 1～3年（48人）帰校 ・魚釣り ・カヌー ・スタンプ ・バーベキュー ・キャンドルサービス	昼間 指導者：教員5人 支援員10人 現地スタッフ4～8人 帰校引率：教員5人 支援員3人 夜間 宿泊：教員5人 支援員10人 現地スタッフ2人

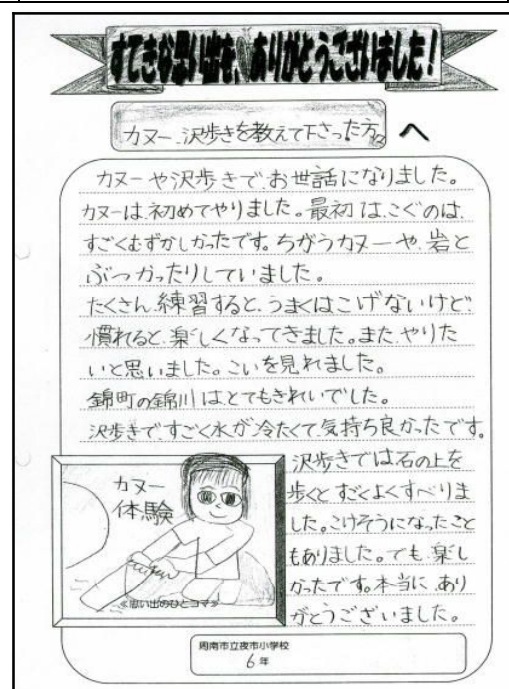
<ul style="list-style-type: none"> ・羅漢山交流センター宿泊 	<ul style="list-style-type: none"> *緊急対応車両：3台
<p>【第4日】〔8月28日（木）〕羅漢山、向峠、広瀬 参加児童59人（4～6年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羅漢山登山 ・奉仕活動 ・向峠地区へ移動 ・わさび栽培 ・乳牛の世話 ・深谷峡温泉清流の郷宿泊 	<p>昼間 指導者：教員9人 支援員10人 現地スタッフ 6～10人</p> <p>夜間 宿泊：教員9人 支援員10人 *緊急対応車両：3台</p>
<p>【第5日】〔8月29日（金）〕宇佐郷、広瀬 参加児童58人（4～6年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奉仕活動 ・沢歩き ・閉校式 ・帰校 	<p>指導体制：教員9人 支援員10人 現地スタッフ5人 *緊急対応車両：3台</p>



(3) 事後指導

ねらい 最も心に残った活動を振り返り、達成感や感謝の気持ちを確認させる。

- ① お礼の手紙等の作成及び送付
2学期に入り早々に、錦町での宿泊体験学習でお世話になった方々へ、お礼の手紙や絵日記を作成し、送付した。
- ② 宿泊体験学習の作品制作
宿泊体験学習のまとめとして、各学年が作品を制作した。
 - 1年生・・・思い出の絵
 - 2年生・・・思い出の絵日記
 - 3年生・・・思い出の絵と作文
 - 4年生・・・思い出の絵
 - 5年生・・・思い出の絵
 - 6年生・・・思い出の絵と作文



【お礼の手紙】



【5年生の作品】

3 体験活動の実施体制

重点事項 ・児童の安全確保体制整備 ・保護者との信頼関係並びに連携の強化
 ・児童や保護者の不安解消

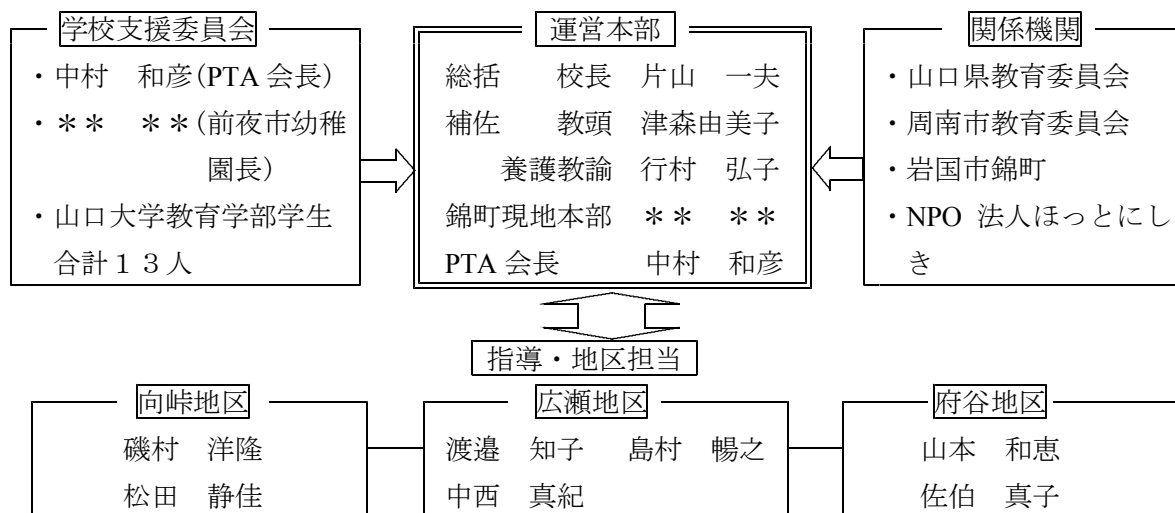
本事業を実施するにあたり、参加対象範囲を何学年までにするか随分迷った。

下学年児童は、親の元を離れて2泊3日を過ごすことはおそらく初めてである。安全面、健康面をはじめとし活動に耐えられるかなど、不安はたくさんあった。

最終的に全学年参加として実施を決定した主な理由は以下の通りである。

- ・ 本校には長い伝統のある「家族班」活動があり、6年を中心とする上学年児童が下学年児童を入学当初から親身になり大変よく世話をすること。
- ・ 児童の基本的な生活習慣が比較的しっかりしていること。
- ・ 児童が大変素直であり、勤労意欲が旺盛であること。
- ・ 児童は戸外での運動、遊びを好む者が多く、体力が比較的高いこと。
- ・ 児童は集団行動が比較的きちんとできること。
- ・ 本校教育活動に対して、保護者やPTA、地域の理解と協力があり強力な支援があること。
- ・ 山口大学教育学部の学生との交流が、平成15年度のチューター事業から現在も継続していること。
- ・ 人間関係づくりやコミュニケーション力向上をめざす本校教育活動を充実するために、有意義であること。
- ・ 教職員全員の総意として決定したこと。

(1) 錦町宿泊体験学習の運営体制



(2) 保護者への説明、児童の健康調査及び安全管理体制

① 保護者への事前説明会

- ・ 第1回〔6月14日(土)〕
 内容 ・目的 ・活動内容と指導体制 ・経費 ・錦町と体験学習の概要(プレゼン)
 ・質疑応答
- ・ 第2回〔7月17日(木)〕
 内容 ・宿泊家庭 ・必要経費 ・持ち物 ・お願い
 ・児童受入に向けての構えや準備状況を説明(錦町担当者) ・質疑応答

② 児童の健康調査

- 1回目の健康調査では、アレルギー等、保護者が事前に民泊家庭に知らせたいことを把握して一覧表を作成し、錦町担当者を通して各民泊家庭へ届けた。(7月14日提出)
- 2回目の健康調査は、宿泊学習直前の子どもの体調を把握するために行った。調査結果を一覧表に追記し、錦町担当者を通して各民泊家庭に伝えた。(8月17日提出)
- 各民泊家庭から、配慮が必要な児童へ特段の配慮があった。
- 特に配慮を要する児童2人(1年、5年生各1人)がお世話になる民泊家庭には、担任教師が児童と一緒に民泊家庭に宿泊し、諸活動を見守った。

③ 安全管理体制

- けがや病気等様々な事態を想定し、事前に錦町と綿密な打合せを行うとともに、危機管理マニュアルを作成の上、共通理解を図った。
- 民泊の2泊については、錦町の各地区に教員と支援員を配置した。それぞれそこで2泊し、昼夜を通して万一の事故等に備えるとともに、諸活動へも参加した。夜間、教員、支援員が児童のホームシックの対応等を行うことが若干あった。
- 第2日目は、全ての地区と民泊家庭を校長、教頭、PTA会長等で巡回し、活動の様子を確認した。
- 第4日目の羅漢山登山は、不安定な天候の中で実施するか否か判断を迷ったが、インターネット情報、現地スタッフの意見を参考にして、雷が発生しないことを確認の上、実施の判断をした。
- 川遊びやカヌーなど大きな危険が伴う活動は、教員、現地スタッフ、支援員が分担してたくさんの人の監視体制を敷いた。
- 錦町の現地スタッフの安全管理、指導が充実しており、諸活動を安心して任せられた。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

(1) 評価の工夫

- ① 児童及び保護者に対して、9月上旬にアンケート調査を実施し、結果をグラフと文章にまとめた。学校だよりにアンケート結果の一部を掲載して、集団宿泊学習の成果や課題を保護者へ知らせた。また、「実践集」を作成し学校図書館で自由に閲覧できるようにしている。
- ② 支援員は、集団宿泊学習終了後、自由記述による振り返りを行った。
- ③ 教員は、第2学期の諸教育活動を実践する中で、児童の行動観察を中心とした児童の変容を評価し、全教職員が共有した。

(2) 指導の改善

- ・ 集団宿泊学習後、多くの児童が学校や家庭生活によりよい変化が見られ、どの児童からも自信や意欲を感じる。
- ・ 家族班活動、全校行事、集会活動等の活動の様子から、全校児童のまとまりや高学年児童のリーダーシップの高まりを感じる。
- ・ 集団宿泊学習以後、学校教育諸活動を推進する中で、教員がこうした児童の変容を認め、児童一人ひとりの自信や意欲、自己肯定感を強化しつつ家族班や各学級、全校での活動を一層充実させている。

5 活動の成果と課題

(1) 本活動のねらいや重点事項について、以下のことから概ね達成し成果を挙げたと考える。

- 教職員による児童の行動観察等から（一部抜粋）
 - ・ 教員と児童の人間関係、信頼関係がさらに強まった。
 - ・ 6年生を中心とする上学年は、家族班の下学年へ配慮するとともに、活動や生活全体の世話をするなど、リーダーとして友達をまとめた。それら全ての体験が、学校生活に生かされていると感じる。
 - ・ 一番心配していた民泊家庭での生活を、児童は楽しい思い出と感じていた。それは、思いやりを実感できたからだと思う。
- 児童のアンケート調査及び事後学習から（一部抜粋）
 - ・ 全ての質問に対して、9割程度の児童が活動を肯定的にとらえる回答をしており、児童にとって有意義で心の琴線にふれる活動になったと思われる。
 - ・ 自由記述には、子どもたちの活動期間中の思いが盛りだくさんに記述され、体験を今後の生活や自分の成長に生かしたいという願いなども述べられている。初めての場所で初めての体験をする中で一生懸命取り組んだことが伝わってくる。
 - ・ 児童の自由記述や作成したお礼の手紙、作文から、お世話になった人々へ対して感謝の気持ちが培われたことが伺える。
 - ・ 事後学習の絵画に、児童が楽しく活動している様子が生き生きと描かれており、充実した活動であったことが伺える。
- 保護者のアンケート調査から（一部抜粋）
 - ・ 本事業を実施するにあたり、各家庭において食事のマナーや礼儀作法等を家族で話し合ったり、実践したりするなどの取組が行われた。結果的に基本的な生活習慣を大切にする意識の高まりや、家族での話し合いなどの機会を提供することになった。
 - ・ 本事業を実施して、9割を超える保護者が「有意義であった」と回答し、児童の家庭生活にもよりよい変化が現れているとの回答もある。こうした変化は一時的なものもあると思われるが、今後の児童のすこやかな成長により影響があると考ええる。
- 学校支援委員会から（一部抜粋）
 - ・ 家族班のまとまりがよかった。6年生が1、2年生の世話をよくした。体調など友達を気遣う子が多いと感じた。
 - ・ 異年齢集団で高学年が低学年を引っ張っていたところがすばらしかった。また、そういう機会があることが貴重だと感じた。
 - ・ 子どもたちが敬語で話してくれた。多くの小学校へ行ったが、こんなに徹底されているところはなかった。低学年でも、敬語で話していて驚きとともに感心した。
 - ・ 地域の人々が温かく受け入れてくださったことに感動した。地域での体験だけでなく、人と人とを結びつける体験ができたのだと感じた。子どもたちは、今回の体験を忘れないだろう。
- その他（一部抜粋）
 - ・ 本事業は保護者や家族の理解と協力がなくては実施できないものであり、学校と保護者との連携が一層深まった。また、保護者や家族の理解と協力を得て全校児童が参加した。

(2) 全体的には満足できる成果を得たが、以下のことから一部の児童や保護者が十分な成果を感じられなかったことは残念である。しかしながら、下学年は2泊3日間、上学年は4泊5日間の活動を仲間やたくさんの人と共に体験したことは大いに意義がある。

○ 教職員による児童の行動観察等から

- ・ 夏休みの実施に備え、1学期の間に家族班の活動を多くする必要があったのではないかと感じた。
- ・ 事業を終えて、低学年児童への、生活や言葉遣いの指導が十分ではなかったと感じた。
- ・ 消極的な児童がその場の雰囲気慣れるのに時間がかかる。

○ 児童のアンケート調査及び事後学習から（一部抜粋）

- ・ 活動やめあて、家族班活動等に係る質問に、「楽しくなかった」「仲よく活動できなかった」「守れなかった」等と回答した児童が1割程度ある。

○ 保護者のアンケート調査から（一部抜粋）

- ・ 学校の配慮が不足しているとの指摘があった。
- ・ 保護者の金銭面の負担に対する指摘があった。
- ・ 子どもの体力面や精神面での負担を心配する指摘があった。
- ・ 民泊家庭の対応の違いへの指摘があった。

○ 学校支援委員会から

- ・ 事前の打ち合わせや準備不足の指摘があった。

○ その他（一部抜粋）

- ・ 教育課程（道徳教育、道徳の時間及び各教科等）の目標や内容のレベルで、集団宿泊学習との関連を明確に位置付け、体験活動の成果をさらに強化する必要がある。
- ・ 本事業は、文部科学省委託事業として予算措置に基づき実施できた。今回の保護者の負担は食費のみであったが、同様の活動を行うには保護者の金銭的負担が大きい。

